

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成23年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度開設したばかりで、グループホーム(認知症介護)に意欲を持って集まった職員であるため、その力が上手く援助に向いていけばとてもいい介護ができるようになると思う。  
入所者のその人が持っている力を上手く引き出し、少しでも自立できることが増えたり役割を持てるようになることで意欲に繋げるようにしている。本人の生活リズムやペースを大切にしている。  
地域との繋がりを深めるため、まず知ってもらうことを目標に地域行事へ参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は理念に沿って日々のケアとサービスに努めている。利用者と職員と一緒に地域の行事に参加したり、地域の方が事業所の名前にちなんで、窓から見えるところに紅葉する木を植樹してくれるなどの交流も行われている。職員は利用者と話しながら、一人ひとりの力が活かせるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
(ユニット名)	いちよう
記入者(管理者)	
氏名	杉野 千鶴子
評価完了日	23 年 1 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 入社時の研修で必ず理念について話、事務所内にも掲示することで全員の意識を統一している。	
			(外部評価) 事業所開設時に、職員で話し合っ作成し、事務室に掲示している。入社時の研修で理念について説明し、職員会議で理念に添ったケアが実践できるよう話し合っ確認している。	家族や訪問者にも事業所の思いが見てとれるように、玄関などの目に付きやすいところに理念を掲示するよう望みたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設して間がないため、事業所を知ってもらうためにも地域の行事には積極的に参加してきた。ただ、まだまだ訪問者は少ないため、今後はもっと気楽に訪問してもらえるよう機会を作っ行きたい。	
			(外部評価) 区長や自治会長から地域の情報を貰い、盆踊りや祭りに参加し神輿や獅子舞に入っ貰っている。案内のある利用者は老人会に出席している。紙芝居や踊りのボランティアを受け入れたり、中学校や高校の職場体験の場として協力している。今後、グリーンデイの奉仕活動に参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じ積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町グループホーム全体で認知症への理解、グループホームへ理解を深めってもらうため研修会等を開いて地域の方々の参加を広く求めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を設け、現状及び運営等に関し問題を話し合えるばを設けているが、まだまだ不慣れなメンバーであるためもっと話し合いとして充実した物としたい。	
			(外部評価) 包括支援センター職員、地域住民代表者、家族等の参加を得て開催している。事業所の紹介や家族との交流の機会を議題に扱っている。会議開催方法や議題を模索しながら行っているが、参加メンバーが少なく、固定的である。記録が簡略化され内容が分かりにくい。	参加メンバーを消防署やボランティア団体、利用者にも働きかけ多角的な意見を貰えるような取り組みと共に、活発な会議となるよう議題の工夫を期待したい。会議録は会議の内容が後で読み返しても分かるように、具体的な記録の仕方が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃より、運営やサービスに対し相談アドバイスを得ることが出来る。運営推進会議には必ず出席していただき意見交換ができています。	
			(外部評価) 管理者は、現職以前から良好な関係が構築されており、事業所の現状を報告したり、困難事例などについて相談しながら、さらに協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全員が身体拘束をしないために勉強会を行い、同じ意識の元援助行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の具体的な行為について、内部研修や外部研修を受講して正しく理解している。外出傾向のある利用者には見守りを行い、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について、年間の職員勉強会に組んでおり常日頃から職員同士でも話し合いサービスについて話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について、年間の職員勉強会に組んで職員全体で理解していけるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約の際は必ず家族と十分時間をとり、不安や疑問点を尋ね説明を行い理解、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られたときや電話連絡の際など、ご意見やご希望及びご不満や不安なことなどをお聞きしたりして、行事に参加していただいで気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っています。  (外部評価) 家族の面会時は、積極的に声かけをして意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。出された意見や要望には、丁寧に対応し必要に応じて説明や事業所内で検討を行い運営に反映している。重要事項説明書に苦情申立先を明記し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回、職員会議を行い意見提案を聞き話し合う場を設けている。また、常日頃より意見や提案を気軽に話せるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員は意見や要望、気付いたことなど管理者に直接伝えたり、月1回開催される職員会議で発言することができる。管理者は職員の提案や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。また、管理者は代表者にも報告し職員の意見を伝えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 定期的に訪問を行い、職員が働きやすい職場であるよう環境を整えていくよう今後も努力していきたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修に参加する機会を設けている。職員個々の力量や経験にあった研修に参加できるよう声掛けを行い参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 月1回の町内グループホーム連絡協議会に参加できるようにし、同業者との交流意見交換できることでサービスの質向上に取り組んでいる。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスを利用開始する際事前訪問調査を行い、本人の思いや希望・不安に耳を傾け、話し合い不安除去に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用開始にあたり、家族の思いや希望、不安なことに耳を傾け、その場で一緒に援助の方針を話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを利用開始にあたり、本人、家族と十分に話し合いを持ち何が必要かを考えていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員が関わろうと努力しているが、まだまだ十分に出ていないことがある。今後も、生活を共にしているという考えの下に努力していきたく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の時や、月1回のお便り等で本人の状況等を伝えていく。訪問・電話等をお願いし、家族との時間を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの理髪店に訪問してもらったり、友人宅を訪問したりして関係を継続してもらっている。  (外部評価) 馴染みの散髪屋に来て貰ったり、近隣の友人宅へ訪問できるよう取り組んでいる。毎年、出かける地元の祭りで昔馴染みの友人に会う機会を持ったり、家族からの手紙や年賀状の返事が出せるよう利用者一人ひとりにあつた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者同士が良好な関係が築けるよう、声掛けを行い孤立しない環境を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 元気に退所された方はいないが、在宅に戻られて方は孤立しないようお会いした時に悩みがないか等声かけし、居宅のケアマネジャーさんと連絡を取っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用し、本人の思いを把握するように努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、動作や表情から意向をくみ取り、それらを日誌や気付きノートに記録し、職員全員で共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に訪問調査を行い、センター方式を利用して本人だけでなく家族からも情報を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の過ごし方を聞き取りだけでなく、実際の生活の中から把握し、本人の生活リズムを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 課題や目標を介護記録の中でも共有し、本人の生活がよりよくなるために定期的なモニタリングを行い担当者会議を行い計画書を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望を取り入れ、職員で話し合いをし介護計画を作成している。見直しは3か月ごとに行っており、状態の変化に合わせて随時行うこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その日の気づきや状態を、本人の介護記録に記録し、職員間で情報を共有し目標に向けて実践しすることで計画書の見直しにいかしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態や環境、家族構成等により通院等を柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) まだまだ、地域交流の機会が少なくボランティアの訪問回数も少ないため今後の課題とし地域への働きかけを行って行きたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所時に本人、家族と話し合い主治医は今までの医師 を希望すればその希望を優先し、かかりつけ医と同様 に連絡を密に取り状態を伝え適切な医療が受けれるよ うにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する病院に受診できるよう家族が 付き添えない場合は職員が受診支援を行っている。家 族と受診結果の状況報告をして情報を共有するよう努 めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 入所者の変化を見逃さないよう職員は気をつけ、何か あれば看護師に報告相談し主治医と連絡を取るよう にしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院先の相談員や主治医と連絡を取り、家族も交えて 情報交換を行い病院との関係を築いている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族との話し合いは状態を見て行い、情報は職員全体 で把握しているが見取りの指針が出来ていないことが 課題である。早期に指針を作って行きたいと思ってい る。</p> <p>(外部評価) 職員は看取りについて前向きに捉え、具体的な看取り 指針を作成し勉強会を行いながら支援に取り組もうと している。入居時に利用者や家族と話し合いを行い、 看取りの同意書を貰っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に行うよう年間計画を立てて行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害に備え定期的に避難訓練を行い、地域の自主防災組織に加えていく方向で話し合いもできている。  (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。非常時には近隣の協力が得られるようになっており、地区の自主防災組織に加入できるよう協議がされている。	訓練で気が付いたことを記録し、それを基に防災のマニュアルを作成したり、夜間想定を含めた自主的な避難訓練を行うなどより一層の意識向上につながる取り組みを期待したい。備蓄の整備についても検討を望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように職員全体で気をつけているがまだまだ不十分だとも思うこともある。  (外部評価) 職員は、人格の尊重やプライバシーについて入社時に研修を受けている。また、トイレ誘導や入浴時には特に利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。気付いたことは職員同志で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを言葉や態度で示していることを見逃さないようにし、自己決定できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入所者のその日の状態等により、このペースにあった生活のリズムを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みを把握し、その人らしいおしゃれや身だしなみを大切にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日の状態や気分を見ながら、ここの力量を見ながらできる事は声掛けして一緒に行っている。  (外部評価) 食材の買い出しや調理の下ごしらえ、味見など利用者にしてもらえるところは無理がないよう職員と一緒にしている。献立は、利用者の好みを採り入れて管理者が立てている。	月1回は行事などで利用者と職員が共に食卓を囲んで同じ食事を食べているが、さらに楽しい雰囲気です。食事ができるよう一緒に食べる機会を増やすなどの検討を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分量は必ず毎回チェックし1日に必要な食事量や水分量に気をつけている。また、本人の状態に合った食事形態を工夫し、食べる楽しみにも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、一人一人の状態に合った方法で口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを入所当初よりチェックし、本人の行きたいサインを見逃さないようにしてできるだけトイレ誘導し、トイレで排泄することの爽快感を味わってもらえるようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を可能な限り支援している。トイレ誘導の際にはさりげない声かけを心がけ、他の利用者に悟られないよう配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の解消になる工夫を個々状態に合った方法（乳製品・牛乳・寝起きに水分摂取等）で行っており、日頃の食事にも食物繊維の多い食品を利用するなどして工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の好みの温度や時間を、本人の状態を見ながら出来るだけ希望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望や体調に合わせ、夜間も含め入浴を楽しめるよう柔軟に支援している。入浴拒否の利用者には、時間を決めないでタイミングを図りながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠時間に合った生活パターンを守り、睡眠が十分に取れるよう日中の過ごし方も工夫が必要と考えているがまだまだできていないことが多い。日中も本人が自分で休息が取れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関しては看護師に任せていることが多いが、入所時に疾病と合わせて薬に関する情報を職員間で共有し、変更等があった場合は、必ず口頭のみでなく文章にして申し送るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴や力を理解し、楽しみを見つけ、できることへの役割を見つけ毎日の生活に張り合いが出るようにしているがまだまだ十分とは言えない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人が、希望すれば状態に合った形で外出できる機会を作るようにしている。また、盆踊りや文化祭など本人の希望を聞いて全員で行かないものは個々の希望を大切にしている。家族と食事やドライブに行かれることもある。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望に合わせて散歩や買い物、玄関先のベンチでの日光浴などを行い、少しでも戸外に出るように取り組んでいる。また、さつきや菖蒲の花を車で見に行ったり、友人宅を訪問するなど積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と話し合っご本人が金銭管理をされている方もいらっしゃるし、ホームのほうでお金を預かり買い物等外出時などに自由に使える機会も作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば、家族や知人に自由に電話を掛けたり自分で掛けれない人は援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下やトイレなど移動に邪魔なものは置かないようにしており、季節に応じ壁を飾るなどして季節感を大事にしている。	
			(外部評価) 白木造りの共用の空間はゆったりと広く清潔で、各所に手すりを取り付けられており安全に配慮されている。利用者の手作り作品が飾られ、玄関には季節の花が活けられている。和やかな雰囲気の中で利用者は思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや畳スペース、玄関のベンチなど気のあった利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個々の部屋は、自宅で慣れ親しんだものを落ち込まれており、家族が写真や季節のもの飾るなどして居心地よくしていただいている。	
			(外部評価) 家族の協力を得て、使い慣れた布団やテレビ、いす、家族との写真や位牌などを持ち込み、利用者が居心地良く過ごせる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の部屋の名札は廊下から見やすく、その人の視線の位置に入りやすいなど工夫している。トイレは、使用中かどうかわかるように使用していない時はドアを開けっ放しにするなど工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成23年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度開設したばかりで、グループホーム(認知症介護)に意欲を持って集まった職員であるため、その力が上手く援助に向いていけばとてもいい介護ができるようになると思う。  
入所者のその人が持っている力を上手く引き出し、少しでも自立できることが増えたり役割を持てるようになることで意欲に繋げるようにしている。本人の生活リズムやペースを大切にしている。  
地域との繋がりを深めるため、まず知ってもらうことを目標に地域行事へ参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は理念に沿って日々のケアとサービスに努めている。利用者と職員と一緒に地域の行事に参加したり、地域の方が事業所の名前にちなんで、窓から見えるところに紅葉する木を植樹してくれるなどの交流も行われている。職員は利用者と話しながら、一人ひとりの力が活かせるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 紅葉の里・おだ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)  
氏名 稲田 かおり

評価完了日 23年 1 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を把握し取り組んでいる職員が少ない、今後は詰所内に目標を掲示して意識的に取り組めるようにしていきたい。</p> <p>(外部評価) 事業所開設時に、職員で話し合っ作成し、事務室に掲示している。入社時の研修で理念について説明し、職員会議で理念に添ったケアが実践できるよう話し合っ確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の盆踊りやお祭りにも事業所として参加したり、事業所にもボランティアで読み聞かせの方々にも訪問していただいたり、地域の中学生、高校生の研修の受け入れをし交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 区長や自治会長から地域の情報を貰い、盆踊りや祭りに参加し神輿や獅子舞に入って貰っている。案内のある利用者は老人会に出席している。紙芝居や踊りのボランティアを受け入れたり、中学校や高校の職場体験の場として協力している。今後、グリーンデイの奉仕活動に参加する予定である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域密着型としてグループホームの役割などについて地域住民に理解を求める目標で内子グループホーム連絡協議会合同で認知症研修会を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を開催し推進委員のあたる意見や要望を改善課題としている。	
			(外部評価) 包括支援センター職員、地域住民代表者、家族等の参加を得て開催している。事業所の紹介や家族との交流の機会を議題に扱っている。会議開催方法や議題を模索しながら行っているが、参加メンバーが少なく、固定的である。記録が簡略化され内容が分かりにくい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営やサービスにおいて生じる課題や疑問については、事業所で抱え込まず相談しながら協力関係を築くようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、現職以前から良好な関係が構築されており、事業所の現状を報告したり、困難事例などについて相談しながら、さらに協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を開いたり、日々のミーティング等で話し合い取り組んでいる。今後も、研修会等に職員が交互に参加できるようにしたい。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の具体的な行為について、内部研修や外部研修を受講して正しく理解している。外出傾向のある利用者には見守りを行い、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常的な介護サービスでの適切な対応のあり方について話し合い、また正しい認識が持てるよう今後も勉強会等を行って行きたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用されている方はいないが、今後は勉強会を持って職員が理解できるようにしていきたい。また、地域で開かれる研修会にも積極的に参加していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約においては事業所の取り組みや介護サービスに対して状況考え方などを説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族は毎月のお便りや面会時に意見や要望を聞くようにしている。今後は、アンケート等を実施して気軽に意見や苦情を出していただけるようにしていきたい。  (外部評価) 家族の面会時は、積極的に声かけをして意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。出された意見や要望には、丁寧に対応し必要に応じて説明や事業所内で検討を行い運営に反映している。重要事項説明書に苦情申立先を明記し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のミーティング、職員会議、勉強会等で意見や提案ができるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員は意見や要望、気付いたことなど管理者に直接伝えたり、月1回開催される職員会議で発言することができる。管理者は職員の提案や要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。また、管理者は代表者にも報告し職員の意見を伝えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 定期的に訪問を行い、職員が働きやすい職場であるよう環境を整えていくよう今後も努力していきたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修に参加する機会を設けている。職員個々の力量や経験にあった研修に参加できるよう声掛けを行い参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 毎月町内の連絡協議会を開催し情報交換を行っている。また、合同運動会や合同研修会を開催している。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 契約前において事前調査で本人の住まいの状況や困っていることなど十分に把握し、また事業所にも見学に来ていただき十分に納得して入居していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前にご家族の思いや考え家族の状況を把握するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを開始する際、ご家族、ご本人と十分に話し合い、どのようなサービスが適しているか見極め対応するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) センター方式の私の気持ちシートを活用し、一人一人の好きなことや嫌いなことを記録し意向を確認しながら関係作りを行っているがまだまだ十分でないので今後も自然に支えあえる関係作りをしていきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会行事での情報交換や毎月のお便りには、日頃の生活の出来事や写真も印刷して伝える。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 全ての方ではないが以前からの理容師さんが訪問して散髪をしてもらったり、手紙の返事を書いて出すなどの支援に努めている。  (外部評価) 馴染みの散髪屋に来て貰ったり、近隣の友人宅へ訪問できるよう取り組んでいる。毎年、出かける地元の祭りで昔馴染みの友人に会う機会を持ったり、家族からの手紙や年賀状の返事が出せるよう利用者一人ひとりにあった支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士で居室を訪問しあったり、起床の声掛けをしあったり、また目の不自由な利用者さんの誘導なども助け合っておられ、職員はその利用者同士の助け合う気持ちを大切にそっと見守り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) まだ立ち上げたばかりなのでそのような方がいないのですが、今後サービスが終了した後も行事等に参加して頂いたり、気軽に訪問していただくように努めて行きたい。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を活用してアセスメントをしながら本当はどう暮らしたいのか把握し、また意思疎通の図りにくい方にはご家族や関係者から情報を得ながら行って行きたい。  (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、動作や表情から意向をくみ取り、それらを日誌や気付きノートに記録し、職員全員で共有しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査等で情報を収集し今までの暮らしぶりを把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを理解し日々の生活の中での出来事など介護記録に記入し職員全員が把握できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の介護に中での行動や言動を観察し介護記録に記入し職員全員で共有している。本人、家族の思いや意向、気づきやアイデア等を反映し介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望を取り入れ、職員で話し合いをし介護計画を作成している。見直しは3か月ごとに行っており、状態の変化に合わせて随時行うこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護記録により、その日勤務していなかった職員にも解るよう毎日の状況等情報を共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて受診や送迎など柔軟な支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者が楽しい暮らしが送れるよう地域の民生員、ボランティアの協力を得て交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人ご家族の希望するかかりつけの医療機関にて継 続した治療が受けれるようご家族と相談しながら受診 介助をしたり、また家族が付き添ったりして通院治療 を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する病院に受診できるよう家族が 付き添えない場合は職員が受診支援を行っている。家 族と受診結果の状況報告をして情報を共有するよう努 めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場内に看護師がおり利用者の日常的な身体状況や変 化を報告しすぐに適切な受診が受けれるように努めて いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 早期に退院できるよう、病院関係者との情報を行い、 退院前には管理者、責任者、看護師での病院関係者と 話し合いをしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 病状の変化、状況に応じて今後の予期できる事項を踏 まえた説明を看護師同伴で家族に行い今後の方向性等 についても話し合い、記録しスタッフ皆に共有してい る。 今後は看取り対応マニュアルを作成する必要がある。</p> <p>(外部評価) 職員は看取りについて前向きに捉え、具体的な看取り 指針を作成し勉強会を行いながら支援に取り組もうと している。入居時に利用者や家族と話し合いを行い、 看取りの同意書を貰っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の教習を行い、また緊急時対応についてはマニュアルを作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防隊の協力により避難訓練をしたり、避難経路や心構えなどについて訓練している。  (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。非常時には近隣の協力が得られるようになっており、地区の自主防災組織に加入できるよう協議がされている。	訓練で気が付いたことを記録し、それを基に防災のマニュアルを作成したり、夜間想定を含めた自主的な避難訓練を行うなどより一層の意識向上につながる取り組みを期待したい。備蓄の整備についても検討を望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄や入浴など介助においては、自尊心を傷つけないように注意を払いながら介助を行っている。  (外部評価) 職員は、人格の尊重やプライバシーについて入社時に研修を受けている。また、トイレ誘導や入浴時には特に利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。気付いたことは職員同志で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人の希望や好みを把握し日常生活の中で自己決定ができるような声掛け支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日によって起床時間、食事の時間等をずらしたり一人一人のペースに合わせて過ごして頂けるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の着替えや化粧品の利用などを見守り不自由なところはさりげなく声掛けしなおして頂いたり、以前よりなじみの理容師さんに訪問して頂いたりおしゃれを楽しんでもらうよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お米研ぎ、野菜の下ごしらえを一緒にして頂いたり、味付けの具合を見てもらうなど何らかの形で参加していただいている。  (外部評価) 食材の買い出しや調理の下ごしらえ、味見など利用者にしてもらえるところは無理がないよう職員と一緒にやっている。献立は、利用者の好みを採り入れて管理者が立てている。	月1回は行事などで利用者と職員が共に食卓を囲んで同じ食事を食べているが、さらに楽しい雰囲気です。食事ができるよう一緒に食べる機会を増やすなどの検討を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量を観察記録している。水分量食事量の少ない方はゼリー等にしてたり形態に工夫して美味しく食べていただくよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けしたり誘導している。義歯は夜間にポリデント消毒して清潔に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを記録にて把握している。尿意のない人にはされげなく声掛け誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を可能な限り支援している。トイレ誘導の際にはさりげない声かけを心がけ、他の利用者に悟られないよう配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状況を個別で観察しながらセンナ茶や乳製品を取っていただいている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日、時間を確認し、できる限りご本人の意向を大切にして入浴していただいている。夜間入浴も行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望や体調に合わせ、夜間も含め入浴を楽しめるよう柔軟に支援している。入浴拒否の利用者には、時間を決めないでタイミングを図りながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人ごとの睡眠状況を把握し、日中は散歩や作業など取り入れ活動量を増やし夜間安眠できるよう促している。その日の体調や表情から疲れ具合をみて、休息していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の内服状況がわかるよう説明書を個別でファイルして共有している。 また、内服薬の変更時は申し送りノートにて共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の調理や洗濯物干し、また歩けない方には洗濯物たたみや編み物等々一人一人得意なことをしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人がその日の希望にそって外出は難しいが、食材の買い物と一緒に同行してもらったり、季節ごとの花や紅葉見物に出かけたりして気分転換を図り生活に楽しみを持っていただいている。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望に合わせ散歩や買い物、玄関先のベンチでの日光浴などを行い、少しでも戸外に出るように取り組んでいる。また、さつきや菖蒲の花を車で見に行ったり、友人宅を訪問するなど積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向によりお金を所持している方もいる。また、家族よりお金を預かっている方も買い物時一緒に準備してお金を支払いができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を掛けたいと訴えた際にはすぐに対応し、お話をしている。個人で携帯電話を持たれている方もおられ、自室にて娘さんやお孫さんと会話を楽しまれている。手紙や年賀状のやり取りもできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関横にはベンチを設置し利用者さん同士が腰掛ゆっくり会話ができるようにしている。また、リビングの壁には季節毎の飾りや廊下には日めくりを設置し日付や季節を実感できるように工夫している。	
			(外部評価) 白木造りの共用の空間はゆったりと広く清潔で、各所に手すりを取り付けられており安全に配慮されている。利用者の手作り作品が飾られ、玄関には季節の花が活けられている。和やかな雰囲気の中で利用者は思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのテレビ前のソファは利用者さん同士で会話を楽しまれたりし、憩いの場として活用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使い慣れている布団や家具などを持ってきて頂き居心地の良い居場所作り心がけている。	
			(外部評価) 家族の協力を得て、使い慣れた布団やテレビ、いす、家族との写真や位牌などを持ち込み、利用者が居心地良く過ごせる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口に名札を付けまた目の不自由な方や字の読めない方の居室には、飾りや目印をつけるなどの工夫をしている。	